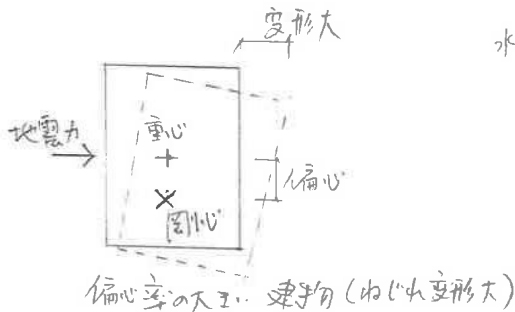


# 平成26年 No.18 鉄骨構造の耐震設計

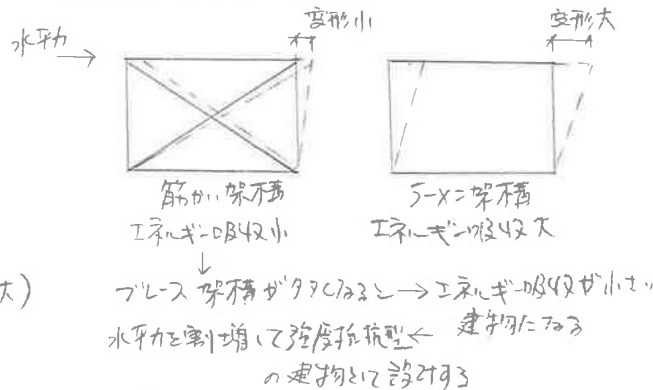
1. 鉄骨造計算ル-1-1, 1-2の標準せん断力係数 $C_0 \rightarrow$  標準せん断力係数 $C_0 \geq 0.3$ 以上とて設計する
2. 鉄骨造計算ル-1-2の偏心率  $\rightarrow$  標準せん断力係数 $C_0 \geq 0.3$ 以上とし、偏心率 $\leq 0.15$ と確認する
3. 鉄骨造計算ル-1-2の筋かゝりの $\beta$ による水平力割増  $\rightarrow$  筋かゝりの水平力分担率に応じて地震時水平力を割増して設計する
4. 鉄骨造計算ル-1-3の有効細長比、幅厚比と $D_s \rightarrow$  筋かゝりの有効細長比、柱梁の幅厚比を考慮して $D_s$ を算出する

設計	ル-1-1, 1-2の標準せん断力係数 $C_0$	条件	検討内容
一次設計	ル-1-1	規模 階数 $\leq 3$ , 延べ面積 $\leq 5000$ $S_{100} \leq 6m$	標準せん断力係数 $C_0 \geq 0.3$ , 筋かゝり部、接合部の破断防止他
	ル-1-2	階数 $\leq 2$ , 延べ面積 $\leq 5000$ $S_{100} \leq 12m$ (平家は $3,000m^2$ 以内)	<u>偏心率<math>\leq 0.15</math></u> <u><math>C_0 \geq 0.3</math></u> , 筋かゝり部、接合部の破断防止 局所座屈等の防止, 他
二次設計 (下地震)	ル-1-2	高さ $\leq 31m$	筋かゝりの $\beta$ による応力割増し 筋かゝり部、接合部の破断防止 局所座屈等の防止他
	ル-1-3	31m < 高さ $\leq 60m$	層間変形角 $\leq 1/200$ 偏心率 $\leq 0.15$ 剛性率 $\geq 0.6$ 層間変形角 $\leq 1/200$ 保有水平耐力の確認 $Q_u \geq Q_{un}$ ( $Q_{un} = Q_{ud} \cdot D_s \cdot F_{es}$ )

## 2. 鉄骨造計算ル-1-2の偏心率



## 3. 鉄骨造計算ル-1-2の筋かゝりの $\beta$ による水平力割増



## 4. 鉄骨造計算ル-1-3の有効細長比、幅厚比と $D_s$

